



爽 緑

銚子市立明神小学校学校便り
VOL.22 令和6年1月23日

令和5年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子どもの育成」 ～かしこく やさしく たくましい 明神っ子～
『学校は子どもにとってワクワク・ドキドキできる場所』

第59回冬季交歓会

1月18日、19日の2日間で、群馬県片品小学校との第59回冬季交歓会が行われました。今年の片品村は年が明けても降雪がなく、そり遊びや雪遊びが出来ないかもしれないと聞いていましたが、出発直前にかなりの降雪があり、スキー場も通常通りに開設されていました。子供たちは一面の銀世界で、片品小の児童と共に楽しく貴重な交流をすることができました。



行きのバスの中で、片品村に近づくにつれ車窓に広がる雪景色を見ながら、「すごくきれい!」「こんな景色は銚子では見られない。」「ワクワクが止まらない!」という子供たちの言葉がたくさん聞こえてきました。このように子供たちの心が揺さぶられ、ワクワクが止まらないくらいの高揚感を抱けること、これこそ最高の教育活動だと感じました。

また、宿でのレクリエーションや部屋での交流、翌日の炭クラフト体験やドッジボール大会などをとおして、片品小の友達との絆も深まっていきました。1泊2日の行程のため、実際に片品小の友達と交流できる時間は丸1日もありませんでしたが、子供たちの楽しそうな表情や別れ際の寂し気な様子をうかがうと、人と人とのつながりは「時間の長さ」ではなく「時間の深さ」であると、改めて実感させられます。

今回の交歓会では、宮川会長をはじめ5年生の保護者である親師会役員の方々も同行してくださいました。今後は夏季・冬季共に、コロナ禍後の新しい形の交歓会として、1泊2日のホテル(旅館)泊での行程となりますが、この交歓会は学校や児童同士の交流だけでなく、保護者、地域の方々の交流でもある行事です。帰りのバスの中で、宮川会長から「この交歓会で何回片品村を訪れても、毎回片品村の皆さんの温かい心に感動するんです。皆さんがこの交歓会で何を思うか。そして、いつか自分の子供がこの交歓会を経験した時、何を思うのか。この交歓会という心の交流を大切にしてほしい。」といった旨のお話を子供たちにしてくださいました。明神小の子供たちには、自分たちのことを本当に大切にしてくださる保護者や地域の方がいる、そして「交歓会」という素晴らしい心の交流がある、この明神地区、自分たちの地域を大切に思っていてほしいと願っています。



保護者の皆様、親師会役員の皆様、地域の皆様には、交歓会へのご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。